

日本DT協会は二十歳になりました。

DTAJ 会員の皆様、この『DT通信』を手にとってくださった皆様、2023年をお元気に迎えましょうか。日本DT協会は2022年12月で二十歳になりました。多くの会員の皆様、いろいろな形で関わり、応援して下さっている皆様に、こころより感謝申し上げます。海外の同志とも連携しながら、日本のDTを成熟させていきたいと思ひます。

さて今年こそ、コロナ感染防止のための制約から解放されて、思いっきり日常生活を、レクリエーションを楽しむことができますように、祈る思いでこの通信をお届けします。今、少しずつ緩和されつつある中でも、皆さんのご苦勞は続いていることと思ひます。今号では、「コロナの中でもできるDTは?」「利用者さんに少しでも楽しんでもらうためには?」とチャレンジされた皆さんの活動報告と、「コロナの功」ともいえるオンラインによる交流の広がり、DTW 養成講座や国内外の情報とともにお伝えします。



一人一人が個性豊かな正月飾りを作りました
(仁誠会クリニック黒髪)



2022年2月、国際大会のパネルディスカッション



2022年、第18期DTW養成講座

コロナ下でも楽しめた!
オンラインでも繋がれる!



2021年、第17期DTW養成講座



2021年6月初のDTウェビナーを開催



2023年4月 太陽のもとで、のびのびお花見
(デイサービスまおる)

国際的に広がったDT&RTの輪

日本ダイバーショナルセラピー協会会員の皆さん、この「DT通信」を手にとってくださいました皆さん、こんにちは。春の陽気とともに、ようやく街に表情が戻ってきましたね。『DT通信』も2年ぶりに20号をお届けします。「今こそDT!」の特集ページは、19号の重複になりますが、4月の大阪バリアフリー展で配布の機会を得ましたので、新しくDTを知ってくださる方のために一部再掲させていただきます。

さてこの3年間のコロナ禍で、社会全体がイベントや活動を制限するなか、皆さんが携わる分野でも、レクリエーションや外出もしづらいもどかしさを感じておられたことと思います。ただzoomなどオンラインによる交流が普及したことで、DTやレクリエーションセラピー(RT)の国際的な輪が一気に広がったことも確かです。そんな中で「できる範囲でできる限りの楽しみを!」と頑張っておられたDTWさんたちの記録が「今こそDT!」特集です。

一方で、大きな変化も生まれています。20号ではまず、そのような最近の情報からお伝えしましょう。

「レクリエーションは人としての権利です」

2022年2月21日から開催された“International Knowledge Exchange / IKE (学びと交流の国際大会)”は、このような宣言で始まりました。



ダイバーショナルセラピー&レクリエーションセラピーのオンラインによる初めての国際大会。6か国から7人の代表がプレゼンテーションを行った

ダイバーショナル&レクリエーションセラピー(DRT)とレクリエーションセラピー(RT)、セラピューティックレクリエーション(TR)…。世界には名称は異なってもレクリエーションやライフスタイルに焦点を当て、同様の目的をもった活動がたくさんあります。2016年ごろから、それらに連携を呼びかけたのがオーストラリアDT協会でした。

そして2017年に「Diversional Therapy&Recreation Therapy International Coalition(DT&RT国際連携)」が結成され、オーストラリア、ニュージーランド、日本、アメリカ、カナダ、イギリス、南アフリカによるオンライン会議が定期的実施されるようになりました。日本からは日

本DT協会と福祉レクリエーション分野の方が参加しています。その有志が主催してオンラインで開催したのが前述のIKEです。

1日1か国が担当し、オンラインで自国の社会的背景や現状、実際の活動などについてプレゼンテーションを行い、最終日には視聴者も含めたパネルディスカッション。日本のDT活動にも注目が集まり、後日アメリカからの依頼で芹澤理事長がドールセラピーについてのウェビナーを行いました。IKEへの参加者は延べ100人以上(8カ国)となりました。各国の発表については次号でお知らせします。

このように、コロナ禍を通して、セラピーやライフスタイルのケアとしてのDT&レクリエーションの重要性はますます重要視されるようになり、オーストラリアやニュージーランドではダイバーショナルセラピストはエッセンシャルワーカーとして、介護施設で働き続けたといえます。

【IKE主意書より】

レクリエーションは全ての人々にとっての権利です! 遊び(Play)には力があります。身体的、社会的、精神的、認知的、感情的な問題に直面している人々にとって、レクリエーションという形でのセラピーは特に強力なものとなりえます。

その人にとって夢中になれる有意義な活動は、スキルの再構築、気分の改善、生活の質の向上、社会的つながりの強化に役立ちます。レクリエーションは全体的な幸福感を高め、あらゆる年齢、文化的背景、異なる能力を持つ人々に利益をもたらします。

オーストラリアDT協会は「オーストラリア・レクリエーションセラピー協会」 Australian Recreation Therapy Association / ARTA

国際的には“レクリエーションセラピー”の専門性が高まり、オーストラリアDT協会とニュージーランドDT協会



は2017年に、DTをDiversional and Recreation Therapy(DRT)と改めました。さらにオーストラリアでは医療関連専門職の全国組織に加盟するために、より専門性を明確にすることが求められ、何度も会員による検討を重ねた結果、DRTを“Recreational Therapy(RT)”と改称しました。この間、会長はCharlise BennetさんからRenee Smith(リナイ・スミス)さんに引き継がれています。

スミス会長は「私たちのルーツがダイバーショナルセラピーにあることは確かで、その言葉を排除したのではない。

専門職名を一つに統一するためにはレクリエーションセラピーの方が、我々の専門性をより明確に伝えることができると考えた」と私たちに伝えてきました。そして「日本でダイバーショナルセラピーの名称を使い続けることになんら問題はない。これからも連携を強めていきたい」と言います。

レクリエーションという名称の認識や実際のあり方が国によって異なることはありえます。日本DT協会では“楽しい”と“ライフスタイル”にフォーカスし、より自分らしい人生を全うすることを支援し、より良い方向に転換していくという意味を込めてDiversional Therapyという言葉を引き継ぎます。ニュージーランドでは変更なく“DRT”を使っています。

このように、専門職としてのダイバーショナルセラピーは、どんどん進化していっていると言えます。日本も、もう感染予防に閉じこもることから徐々に脱して、介護する方もされる方も「いかに楽しく生きるか？」を追求し続けていこうではありませんか。



ARTAの新会長・Renee Smith (リナイ・スミス)さん



Reneeさんは2009年の「第4回ヘルスプロモーション国際シンポジウム」(主催:順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチセンター)での基調講演のために来日。この時はオーストラリアDT協会史上、最年少の会長でした。このシンポジウムの後、日本DT協会でもReneeさんを迎えて「日豪DTフォーラム」を開催。各地のDT実践施設を訪問するなど交流を深めました。このような日本にとってよき理解者でもあるReneeさんが再び会長となって果敢にRT&DTの道を拓こうとされています。

ドキュメントDTAJ

2021-2022年度通常総会

2021年度通常総会は書面議決 2022年度は書面&オンラインで行われました

会員の皆様に日本DT協会の財務と活動状況をご報告し、決算や役員選任の承認、活動へのご提案などをいただくと同時に、会員相互のコミュニケーションの場として年に一度開催しております通常総会ですが、2020年からの新型コロナウイルス感染症拡大によって一堂に集まった開催は中止せざるを得ない状況となりました。そこで2020年度からは会員の皆様に議案を書面で郵送し、表決を返送していただくという形をとりました。皆様からは過半数の返信をいただき、各年度とも総会審議は全て議決されました。

また22年度は新たな試みとして、書面秘訣に加えてオンラインによる懇親座談会を開催しました。札幌から関西、熊本まで8人の参加があり、久しぶりに顔を見ての総会&懇親会となって1時間20分も話が弾みました。2023年度も6月に書面議決とzoomによる開催としますので、ぜひ多くの会員の方々のご参加をお待ちしております。詳細は12ページを



初めての書面&オンライン総会。懇親座談会ではそれぞれに近況報告やDTの実施状況、これからのDTについてなど、話の尽きない楽しい時間を持つことができました

ご覧ください。

なお、2021および2022年度に選任された役員は次の通りです。監事は古谷守夫・古谷会計事務所会長から、同所長の古谷玲氏に引き継がれました。

日本ダイバーショナルセラピー協会2022年度役員

	氏名	所属	在住
理事	芹澤 隆子 (理事長)	㈲ウェル・プラネット 代表取締役 Diversional & Recreation Therapy Australia正会員	奈良
	島内 憲夫 (副理事長)	順天堂大学 名誉教授 広島国際大学 客員教授 日本ヘルスプロモーション学会 学会長	千葉
	新野 三四子	元 追手門学院大学 経済学部 教授	大阪
	末島 賢治	㈱ホームケアサービス山口 代表取締役	山口
	竹中 正史	元 フランスベッド株式会社 取締役相談役	東京
	吉田 美幸	医療法人社団 仁誠会 事務長	熊本
	田附 潤一	日本ダイバーショナルセラピー協会事務局長	奈良
	林 新二郎	社会福祉法人 ユーカリ優都会 副理事長	千葉
	中村 博一	有限会社ケアフリー 介護支援専門員	大阪
	松田 茂男	豊生会グループ㈲ おいらーく 統括部長	北海道
	巳本 陽美	医療法人 隆星会 介護支援専門員	大阪
監事	吉川 昇平	行政書士・社会福祉士 よしかわ事務所 代表	奈良
	古谷 玲	古谷会計事務所 所長	大阪



オンラインDTW講座の舞台裏。テレビ局のプロのサポートを受けながら取り組みました(芹澤理事長&田附事務局長)

ニュージーランドのオークランドから講義をされるオルキディア・モルテラ会長



第17期・18期ダイバーショナルセラピーワーカー養成講座
オンライン開催で、59名のDTW誕生!
ニュージーランド、
オーストラリアからもレクチャー

第17期と18期は、2008年に第1期が始まって以来、初めてのオンライン講座となりましたが、職場や自宅で受講でき、当日の受講が無理でも再配信があるという利便性から、全国から多くの方が受講され、認定者が累計で478名になりました。

オンラインのもう一つのメリットは、海外の講師にも講義していただけることです。第17期はニュージーランドDRT協会のオルキディア・モルテラ会長に、第18期ではオーストラリアDRTのシャリーズ・ベネット会長に、それぞれの国におけるダイバーショナルセラピー(以下DT)の歴史や現状、実践事例などを、通訳を介してレクチャーしていただきました。お二人とも具体的に多彩なプレゼンテーションが好評で、そのプロ意識や多様な活動事例に感銘を受けたとの感想が多く聞かれました。

オンライン講座ではロールプレイなどの演習ができないため、通常の48時間に満たない34時間ですが、対面が可能になれば、地域ごとに「DTW実践研修」などを実施していきたいと考えています。第19期もオンラインの予定です。なお第19期DTW養成講座では、再びニュージーランドDRT協会のオルキディア会長の講義があります。



第17期の受講生の皆さん38名は、一つの画面に入り切りませんでした



オーストラリアのシドニーから講義をされるシャリーズ・ベネット会長



第18期の受講生の皆さん24名